

平成27年度第7回行政評価委員会

日時：平成27年10月13日 18時30分～19時40分

場所：伊予市庁舎3階第3委員会室

出席者：妹尾克敏委員長、西田和真副委員長、倉澤生雄委員、三原春美委員、日野桂子委員、木本敦委員

事務局（空岡・小笠原・岡井）

傍聴者：なし

1 開会

会議の成立及び傍聴者はいないことを確認した。

2 議事

(1) 審議事項

① 第6回会議録の確認

前回は、第5回の会議録の確認後、行政評価No. 31からNo. 40までの計6事業について評価を行った。またその後、No. 21からNo. 39まで計5件の廃止事業の報告を行った。各内容については、2ページ目から順に記載している。

② 外部評価結果の確認

(事務局)

お手元に配布している「平成27年度外部評価結果、平成26年度事務事業（未定稿）」という冊子をご覧いただきたい。前回までに外部評価の審議あるいは報告を行った40件の事務事業について、各委員の発言のうち、質問を除いた感想や提言を要約して掲載している。本日確認をいただいた後、この様式で市長への答申としたい。事前に皆さまに確認いただく予定としていたが、20事務事業分しか準備が整わなかったこと、お詫び申し上げます。

1ページめくった左下に委員会委員の名簿を載せている。その右側に「それから」、「総括意見」とある。この資料では平成26年度の行政評価委員会の内容を載せている。今年度の評価においても、施設は点ではなく面で考えてはどうかといった、1事業に留まらない総括的な意見も出ている。皆さんの意見を踏まえた上で同様に整えたいと考えている。さらに1ページめくると、行政評価シートから抜粋したものをNo. 1から順に掲載している。この表の下から2枠目、外部評価という欄に、委員の皆さまから頂戴した意見を掲載している。

それぞれの事務事業に対する発言に対し意見を頂くという手法もあるのだが、事業の振り返りも含めて、1事業ずつ事務局で読む形を取り、その時点で

気になった意見があれば発言いただくということによろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、No. 1 から説明していく。

(No. 1 からNo. 40まで読み上げ。読み上げ中の発言等は以下のとおり)

- No. 2 の9月の執行状況（の人工数の書き間違い）や担当者とその上位者の評価レベルが違うというのは、オリジナルのシートに戻らないと分からない。原本を直すということであれば、発言は外してもらっても良い。
- No. 34～No. 36の意見についても、概要に載っていない文言がある。

(委員長)

ありがとうございました。ただ今全ての事業シートの行政評価委員会の意見を読み上げていただいた。委員の皆さまには、個々の事業について発言内容を確認いただいたのだが、ここに書いていること以上に、全体を通して何か意見があれば、この際、ご発言ご指摘をいただきたいと思う。あるいは行政評価全般でも構わない。携わってきのお気づきになった点、あるいは印象や感想でも構わない。順次発言いただければと思う。

(委員)

感想である。広報で市の財政がどうなっているとか、予算のこと事業のことを知らせてはくれるのだが、興味なくばらばらっと見てああそうなのかという感じだった。この場所に来て、こんな事業をやって、この事業にはこれくらいお金がかかるということがよく分かった。今後は市のことについて、いろんな面からもう少し積極的に考えていきたいと思う。

広報区長事業の際には、発言で勘違いしたところもあった。広報区長をされてない所もあるので、委員長がこの際ばつさりと、と言われたのが後で理解ができた。慣れてなかった点もあり、迷惑をかけたこともあったのだが、いい経験になった。

(委員)

外部評価のところにも記載しているのだが、国なり県なりの所管が違うから、市の行政の所管が違うというのは、何とかならないのかなと思った。

それからパソコン事業に関してこだわりたいのだが、国で予算が付いているからこういう事業があると。リースとはいえ、結局全部払うのだから買取りと同じである。文科省が1人当たりの設置台数の方針を出したとしても、市は違うのではないかということを考えられるようになると良いのではないかという気がする。

(委員)

初めて行政評価をさせていただいた。地域おこし協力隊は何のことかと言っていたら、その後市の広報を見ると、協力隊をいろいろ取り上げていて、このことかによく理解できた面もある。

ただ、それぞれの事業がものすごく細切れになっており、こういうことをしてほしいということがあっても、これは交付事業だとか何とか事業だとか、それぞれの担当課がいろいろ課題や認識を出してやっていくという面から致し方はないのだが、例えばパソコンの整備事業にしても、パソコンの整備と何を教えるかがマッチングして、初めて市民もこういうことをやってほしいとか、こういうことが必要だといった市民目線になるのではないか。行政評価の手法として、事務を一つ一つ切り分けて担当課が出していくというのはよく分かるのだが、それを統合したところがないと、市民には理解が難しい気がした。

(委員)

部署によって慣れているところと慣れていないところがきっとあると思う。ぱっと見何をやっているのかよく分からない事業があった。書き方について、事業の対象のところできちんとした事業の対象者でないものが上がっている。先ほどもJ A えひめの例が出ていたのだが、団体に補助しているのに、はっきりさせずに書いているパターンがあった。事業の内容に関しても、ぱっと見読んで分かるものはすぐ分かる。ただ、大学の自己点検のときにもこういう書き方をすると言われてたことであるが、事業の内容の中で“適正に管理する”というものがある。適正かどうかは評価する方が行うことである。自らは適正にやるのは当たり前のことだから、何が適正かというのが問題になる。こういう内容を書く欄では、適正という評価的な用語は使わない方がいい。

それから、事務局の準備のことであるが、この評価シートを用意してもらう段階で、複数のものを対象としている事業については、行政財産の事業であったように、一覧表のような資料があらかじめあれば、話が早いというのがある。そういうあらかじめ作っておいてもらうと良かったという事業がいくつかあった。

(委員)

実際市の業務はよく分からないのだが、民間がやる事業計画というのはもっと具体的であり、その進捗度合いを順次チェックしていくことにより、その事業は完結する、結果が出てくると思う。この評価シートでは、その辺りが寂しいというか、実際に動けるのだろうかという気がした。

もう一点、将来的に伊予市が目指すべきいろんな事業や目標というのは、こ

ういう部門別というか、各課単独ではできないところがあると思う。そういうところ、横断的に調整し、事業に乗せていただきたい気がする。

(委員長)

ありがとうございます。私はもう何年も関わらせていただいているのだが、今回の外部評価意見が最も鋭いものがあったと思う。評価シートの記入に慣れているとか慣れていないとかいう次元を超えて、何でこんなことをしなきゃいけないのかという空気が担当課にあるのではないかと思える節があった。

先ほど委員がおっしゃったとおり、大学ですら自己点検・自己評価が求められている時代である。市民の血税で運営している自治体としては、もう少しシビアに受け止めて然るべきだと思う。

それから、慣れている慣れていないという話があったのだが、これは担当課全体の問題ではなく、担当者の問題だと思う。そこは担当課の中で、それぞれ適材適所を図っていただければと思う。

あと、このシートだけでは説明ができないという部分については、必要に応じて適宜追加資料をお作りいただきたい。それがあるとないとは、非常に理解度が違ってくると思う。どこかで追加資料があったら（No. 20高齢者安否見守り事業＝長寿介護課）、ああいったものがあると、非常によく分かるということである。

もう何年前に拝命したのか忘れるくらいであるが、今回が一番シビアで、しかも納得する意見が続出したように思った。

(2) 次回の委員会

(事務局)

次回の第8回委員会は、次年度の行政評価対象事務事業の選定をお願いしたい。現在各課が平成27年度事務事業の中間評価の記入を進めている状況である。事業内容に関するチェック等も含め、年が明けた1月又は2月頃に一度お集まりいただきたいと思う。日程はまだ先のことであるので、委員に改めてお伺いした上で、日時を決めさせていただきたい。

(委員長)

年明けの1月か2月頃だな。前回はいつ集まっているのか。

(事務局)

1月下旬にお集まりいただいている。

(委員長)

1月下旬だったか。そういう予定になろうかと思う。よろしく願います。

(3) その他

(事務局)

事務局から3点の確認、報告事項がある。

1点目、外部評価の報告について、はじめに、総括意見の部分があった。本日委員から貴重な意見を新たに頂いたので、その内容も踏まえ、事務局で調整した後、皆さまに提示したいと思う。その内容を確認いただき、特に問題がなければ、市長への答申並びに議会への報告資料として利用させていただく。

2点目、今後の行政評価の流れである。11月に市長以下部長クラス等による経営者会議を実施する。そこで、この外部評価結果も含め、全ての事業に関して最終的な事業の方向性の決定を行う。修正すべき内容があれば、適宜フィードバックさせることで進めたいと思う。最終的には12月議会に報告するという段取りである。

3点目、本委員会が発足し、スケジュール説明を申し上げた第1回の委員会の際、地方創生にかかる検証に関して説明した。まち・ひと・しごと創生ということで、伊予市も現在12本の事業を展開している。翌年になるのだが、3月末までで事業が終わる。これに関して、事業がどれだけ進捗したか必ず評価をしないといけないということである。こちらについては、来年の4月5月に調整して、お集まりいただきたい。こちらも今から日程の検討は難しいと思うので、第8回行政評価委員会の折に日程の調整をさせていただきたいと思う。

(委員長)

1月2月だけではなく、年度が明けたときにもあるということである。そのつもりにしておいていただきたい。そのほか何もなければ、本日は以上で議事を終了する。ご協力ありがとうございました。

午後7時40分 閉会